昭和40年代の蓮田の風景(志村雷子氏所蔵)

明治24年10月に作成された「東葛飾郡行徳町之地図」(歴史博物館所蔵)

行徳寺町 塩と共に歴史

水運が運んだ人と文化

また家康は現在の東京都江東区付近を流れる「小名木川」「新川」を開削しています。この水路は行徳川とも呼ばれ、まさに行徳の塩を運び込むために整備されたものです。川には定期船も往来するようになり、寛永9年(1632)に16隻であった行徳船は定期船として、幕末のころには62隻にふえています。行徳は水上交通の要所となったのです。

やがてこの水路は、野菜や魚を江戸に送るためにも使われるようになっていきます。人の行き来も活発になり、江戸からは文化がもたらされるようになりました。成田詣でが盛んになったことも追い風になりました。成田山に向かう道としては、小岩から市川関所を通過するコースが一般的でしたが、取り締りの厳しい市川の関を嫌い、船の利用ができる本行徳の河岸から上陸するいわゆる「成田道」も盛んに使われるようになります。寺社詣でのブームもあって、寺町にも大勢の人が訪れたのではないでしょうか。

水田と蓮田の広がる風景

時代は移り、大正6年(1917)10月1日に暴風(高潮)が発生。村はもちろん塩田も甚大な被害に遭い、塩田はやがて姿を消すことになります。替わりに盛んに行われたのが海苔の養殖です。現在も生産は続けられ、初冬には、市内の鮮魚店などで生海苔の販売も行われています。

半農半漁村の性格が強かった近代の行徳ですが、水田耕作は江戸時代から塩作りと並び盛んでした。その影には2人の人物の尽力がありました。17世紀初頭、田中内匠と狩野浄天は幕府に願い出て、八幡付近から浦安の当代島までの用水を開削しています。これが「内匠堀」で現在は地下水路になっています。また塩田は幾度となく作り替えられることで、北へ北へと移り、跡地は水田や蓮田に変わっていきました。昭和40年代ごろまで行徳周辺には、広大な蓮田が広がっていたそうです。

昭和44年(1969)に東西線が開通すると、広大な水田や蓮田は宅地へと生まれ変わり、徐々に現在の街の姿になってきます。長い時間を掛けて変遷してきた行徳地区ですが、今でも街を歩くと先人達が残した足跡を垣間見ることができます。寺町を中心に散策することで、行徳に流れてきた歴史の面影を探してはいかがでしょうか。

9 法善寺

本堂の前に「うたがふな潮の華も浦の春」と刻まれた芭蕉の句碑「潮塚(塩塚)」があります。行徳の俳人、戸田麦丈らが芭蕉百回忌の折に建てたものです。

7 妙覚寺

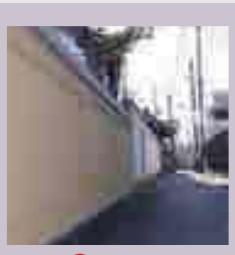
東日本では珍しいキリシタン燈籠を見ることができます。

5 徳願寺

『江戸名所図会』にも描かれた名刹で、安永4年(1775)に建立された山門と鐘楼、経蔵は市の文化財に指定されています。行徳小学校は、明治6年(1873)にこの寺を仮校舎として開校しました。

8 神明(豊受)神社

神社を建てた金海法印は村人と共に働き、その徳の高さから「行徳さま」と呼ばれました。これが地名の由来になったとも言われます。

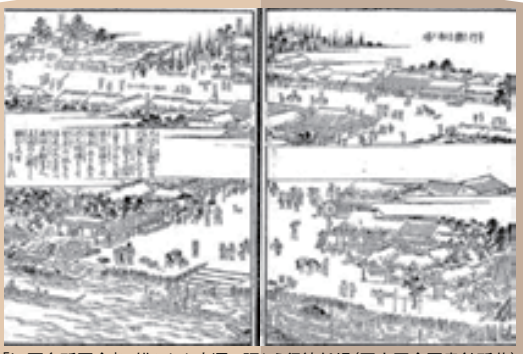


6 権現道

行徳街道より古い道で、笹屋うどん跡の裏手から寺町通りにかけて歴史ある寺が並んでいます。

新春
行徳さんぽ

行徳に歴史の面影を求めて


「江戸名所図会」に描かれた水運で賑わう行徳船場（国立国会図書館所蔵）

大正時代の行徳街道（本行徳公民館付近）

海と川に面した行徳地区は、古くから水運の要として栄え、長い歴史と多くの文化を育んできた街です。妙典、塩焼、伊勢宿、湊…といった歴史をしのばせる地名も残っています。休日は、寺町や古道をめぐって、私たちのふるさとに流れた時間を探してみませんか。

家康が歩いた権現道

「戸数千軒、寺百軒」と言われるように、行徳には宗派も様々な寺が密集しています。大部分の寺は15～16世紀の創建とされ、現在の寺町の基礎は、その当時にできあがったと考えられます。これは、天正5年（1577）の『内藤家文書』に記された、行徳が急速に発展した時期とも重なります。当時の寺は宗教施設であるだけでなく、政治的、文化的にも地域において重要な存在でした。多くの寺は、おそらくこの地域の発展を見越して、行徳に集まってきたのでしょう。

行徳街道に並行して走る細道は、「権現道（ごんげんみち）」と呼ばれる寺町のメインストリートです。権現とは徳川家康公のこと。つまり、鷹狩りのため東金に向かう将軍が通った道であり、法泉寺で休憩したとの記録もあります。

家康を最も喜ばせたのは、行徳に広がる塩田でした。家康は「塩は軍用第一の品、領内一番の宝である」と感嘆し、この地域を天領にして保護し、江戸城に塩を納めさせています。施策は二代将軍秀忠、三代将軍家光に受け継がれ、大金を投じ「塩浜」が整備されました。関西からやってきて塩田を開発し「塩焼」の製法を伝えた、河本弥左衛門のような人物もいました。弥左衛門は出家して宗玄和尚となり慶長5年（1600）に法善寺を建立しています。法善寺が通称、塩場（しばば）寺と呼ばれるのにはそうした由縁があります。

❹おかね塚

船頭との夫婦の契りを信じ、行徳まで追ってきた江戸吉原の遊女かねは一途な想いもかなわず、この地で亡くなりました。阿弥陀石像はその生涯を哀れに思い、遊女たちが供養のために建てたものです。

❷笹屋うどん跡

行徳名物だったうどん屋の安政元年（1854）に建てられた店が残っています。太田蜀山人（おおたしょくさんじん）が書いたと言われる大看板は歴史博物館に展示されています。

❸行徳街道

諸大名が江戸に向かうために作られた道で、ところどころに昔の面影が残っています。

❶弁天公園

江戸時代初めまで弁財天を祭るお宮があったそうです。水田、蓮田が広がる地域に公園が整備され、鎮守の森が見守るいこいの場になっています。